

## 第1回教員推薦図書（2023年5月）

スポーツ科学部 山本 大 教授

### ◆『罪と罰』上・中・下

ドストエフスキー著 / 江川卓訳  
岩波書店（岩波文庫）



10代の頃、図書館の本をすべて読むのが私の目標でした。「罪と罰」は、その時読んだ中でも最も人生観を変えた作品の一つです。この小説は、主人公のラスコーリニコフが犯した犯罪とその後の苦悩、罪悪感を描いています。彼の内面に潜む葛藤や苦しみに共感し、自らの行動と責任について考えさせられました。ドストエフスキーの筆致は鮮やかで、登場人物たちの心理描写には深みがあります。苦難に立ち向かう勇気やまずは自分を変えることの重要性を学ぶには最適な一冊です。みなさんにもぜひ読んでほしいと思います。

### ◆『アルケミスト 夢を旅した少年』

パウロ・コエーリョ著 / 山川紘矢, 山川亜希子訳  
KADOKAWA（角川文庫）

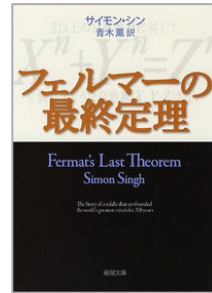


「アルケミスト」は、私が20代、苦勞したドイツ留学時代を支えてくれた感動的な作品です。この物語は、主人公のサンチャゴが自己探求の旅に出る姿を描いています。彼の冒険は物質的な目標ではなく、内なる真実との結びつきを求め旅です。コエーリョの文章はシンプルでありながら、深い洞察力を持っています。読み進めるうちに、夢や目標を追い求めることの大切さ、自己発見の旅の重要性を実感しました。みなさんにとっても、人生の目的や使命について考えさせるきっかけとなると思います。

## ◆『フェルマーの最終定理』

サイモン・シン著 / 青木薫訳

新潮社（新潮文庫）



「フェルマーの最終定理」は、私が 30 代に入った頃に読んで感銘を受けた作品です。すでにサッカーのコーチとして働いていましたが、読んだ後もう一度勉強したい！と思った作品です。この本は、数学者アンドリュー・ワイルズが解明した歴史的な難問を取り上げています。数学の謎解きに関する物語としても楽しめる一方で、ワイルズ的情熱と執念に心を打たれました。この本を通じて、困難に立ち向かい、自分の目標に向かって努力することの重要性を学びました。また、知識や才能だけでなく、根気と忍耐が成功につながることを実感しました。若いうちから自分が追い求める夢や目標に向かって挑戦し、途中で躓いたとしても諦めずに立ち上がる勇気を持って欲しいと思います。

以上の推薦図書は、それぞれの年代において私自身が強く心に残った作品です。私は大学生になって良かったなと思ったことの 1 つに、好きなだけ本を読む時間があったことです。これらの本をきっかけにぜひたくさん本を読んでみてはいかがでしょうか。もしかしたら心の支えになる 1 冊が見つかるかもしれませんよ。